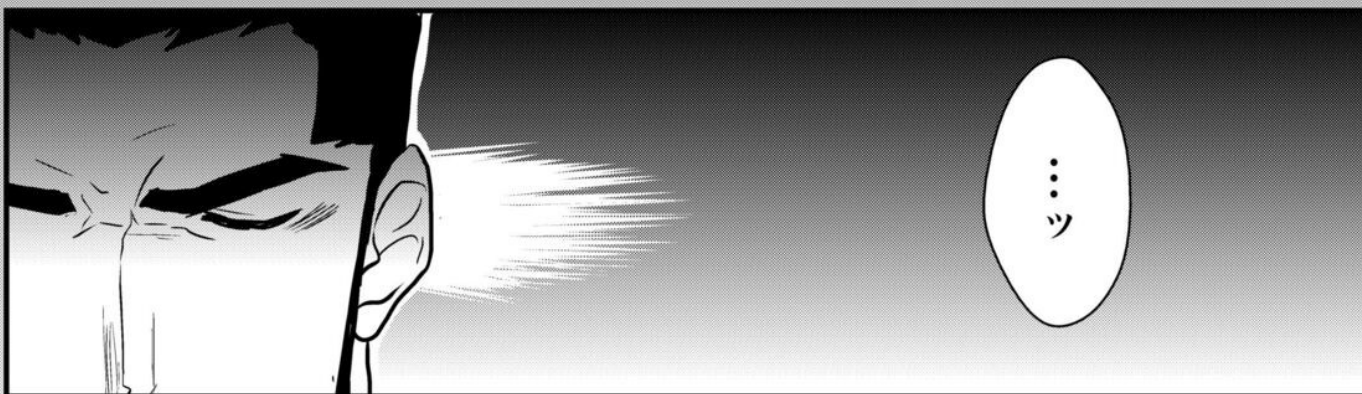
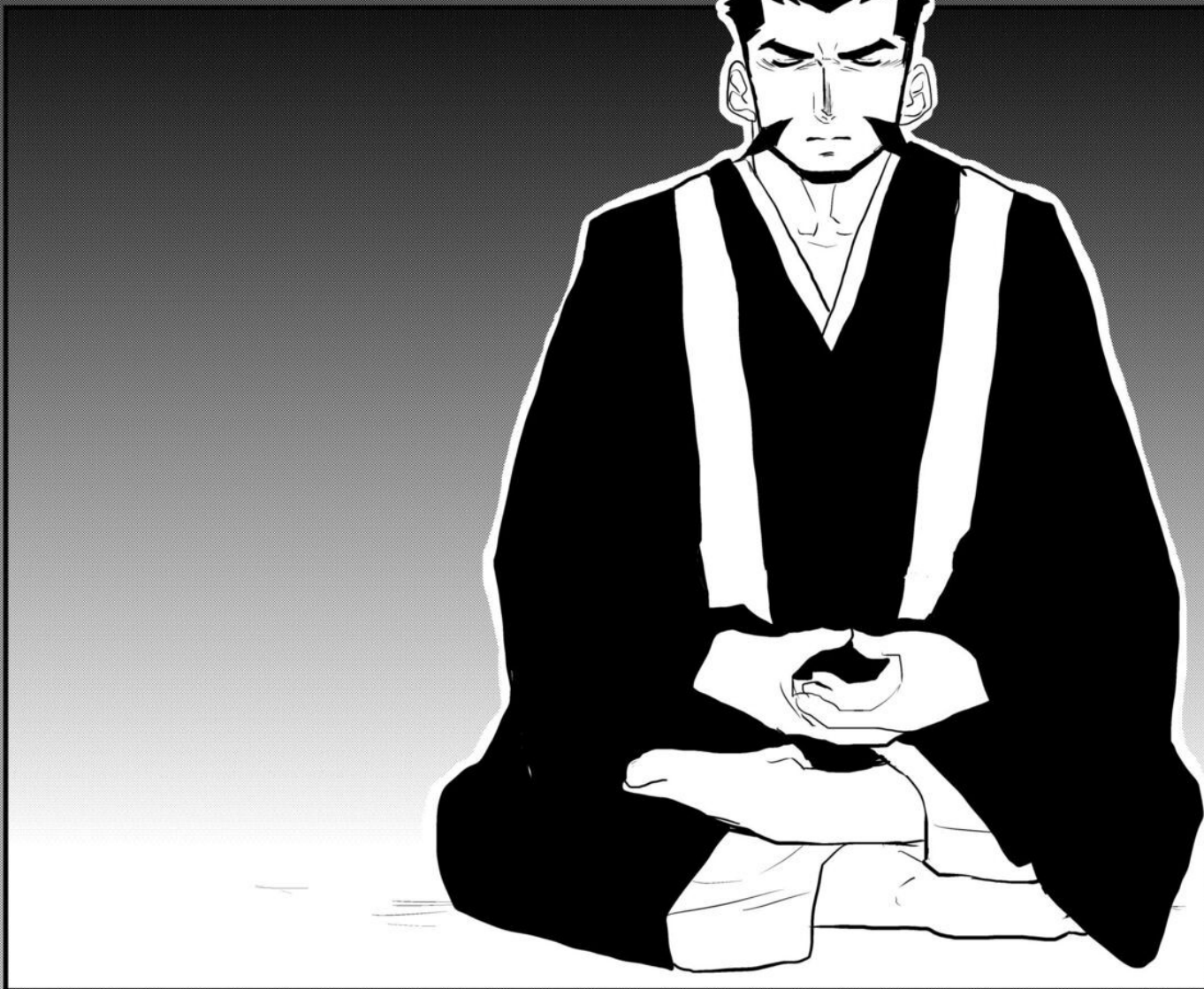
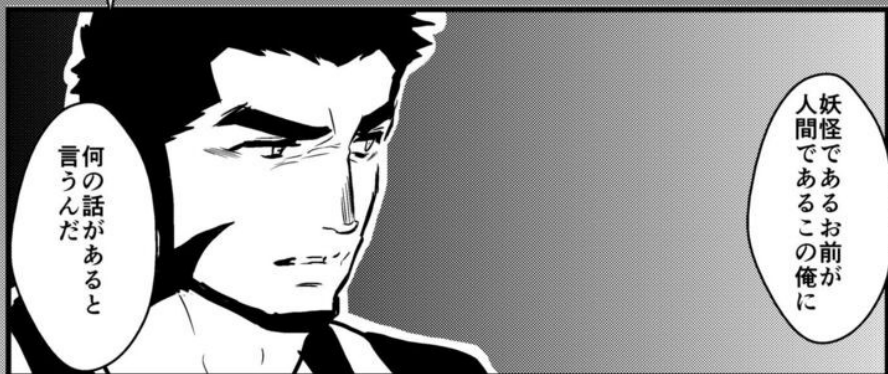
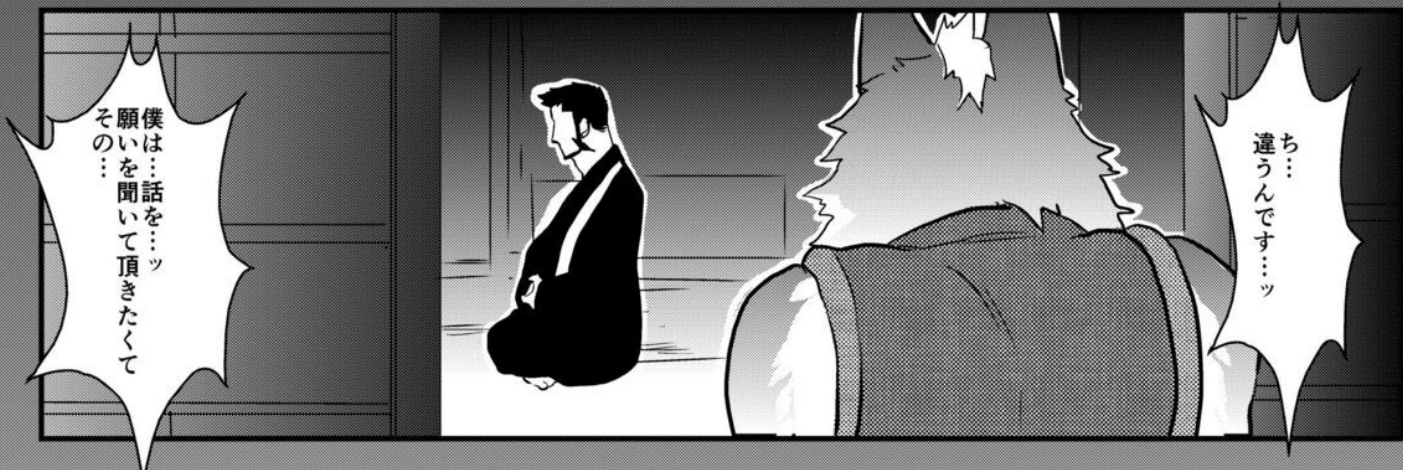


妖 の 森

月
編

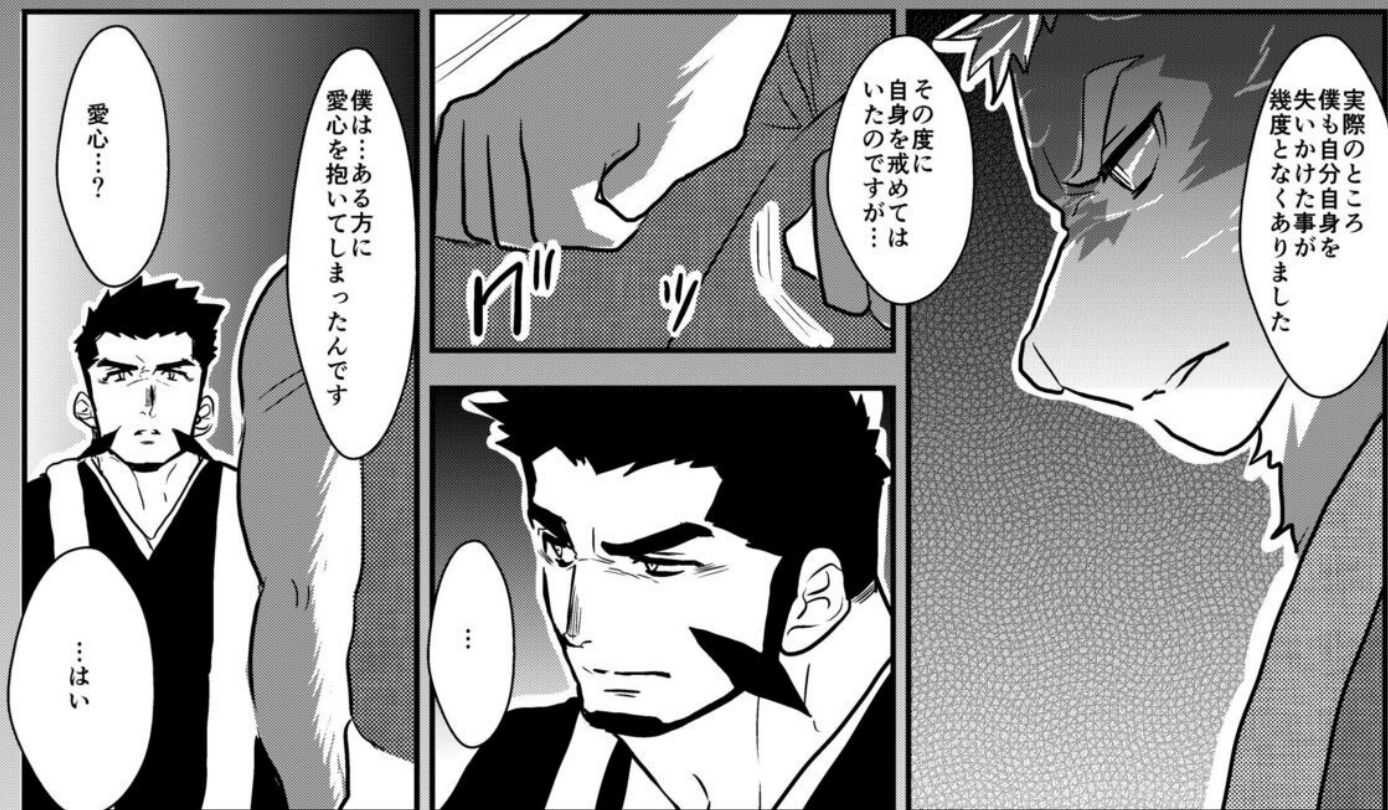


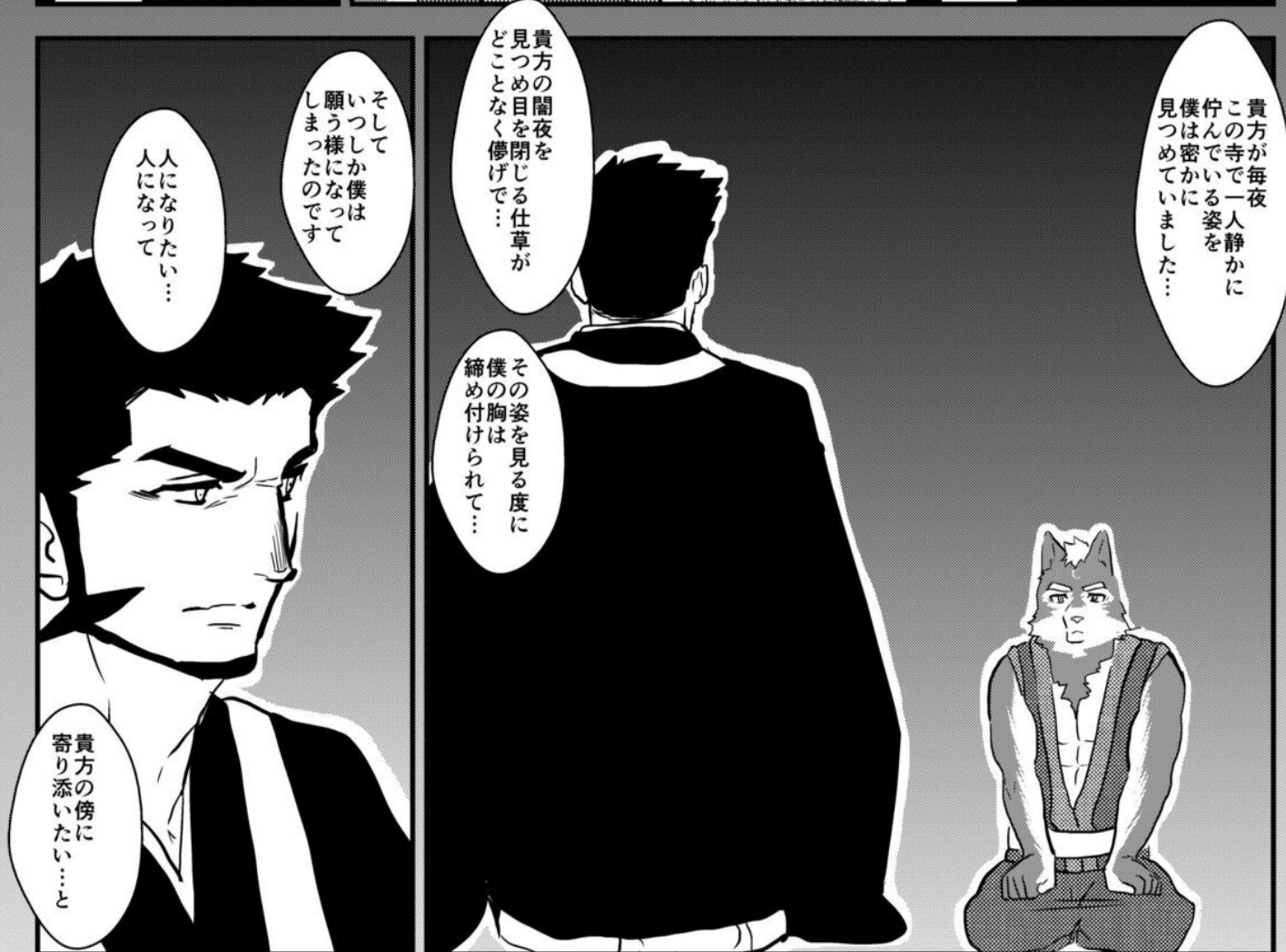
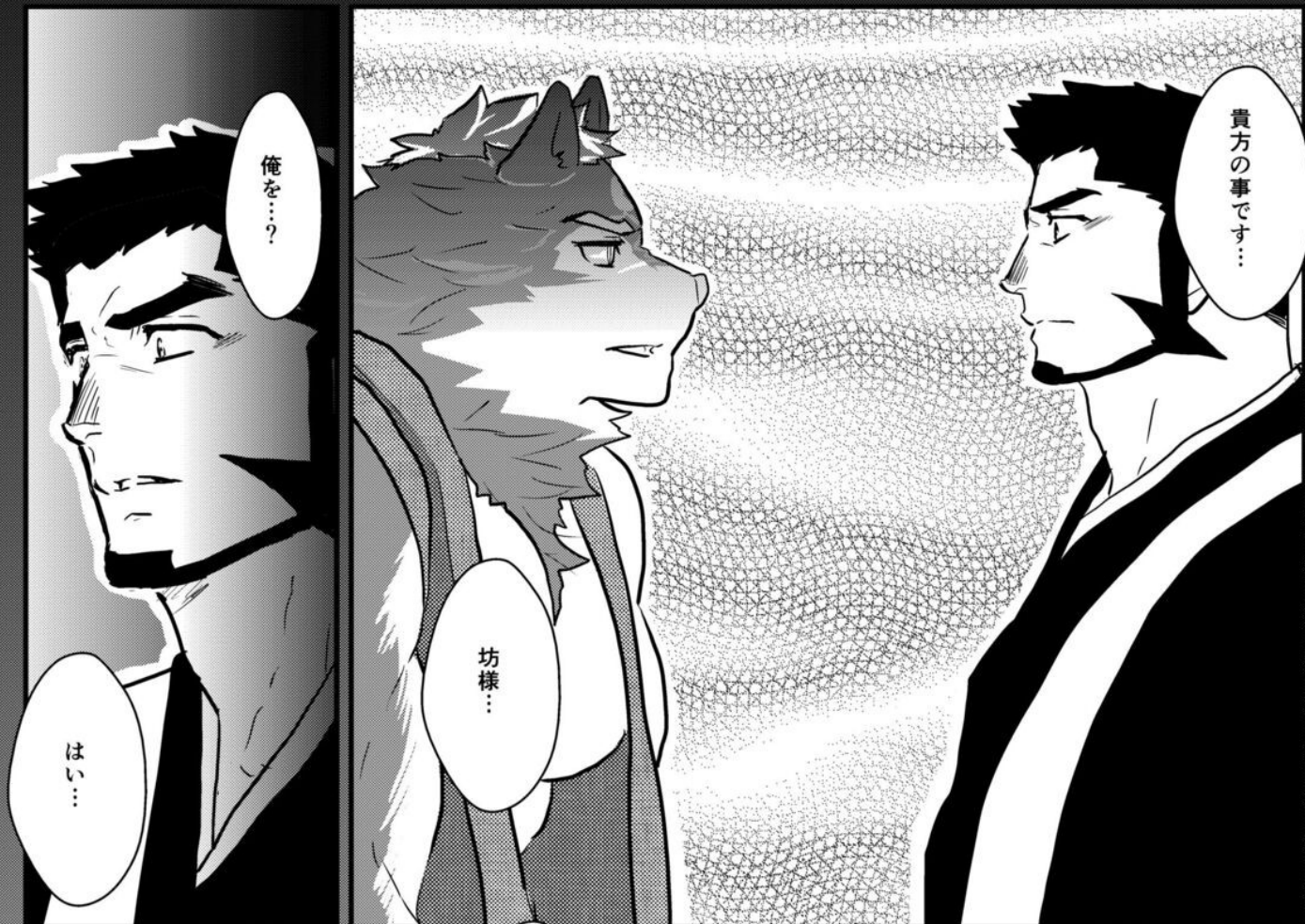
















一刻も早く…ッ
僕を…ッ

だから
お願いします!!
坊様!!

僕を…ッ
僕を殺してください!!



お前の話は
判った…

下界の民が
危険に晒されるような
状況を

俺も
彼方と此方の
門番を生業とする
身だ…

そう易々と
看過は出来ない…

ただ



俺はお前を
殺さない

意味の無い
殺生は
俺の意に反する

そんな事をしては
俺は俺の名を
けがしてしまう事になる

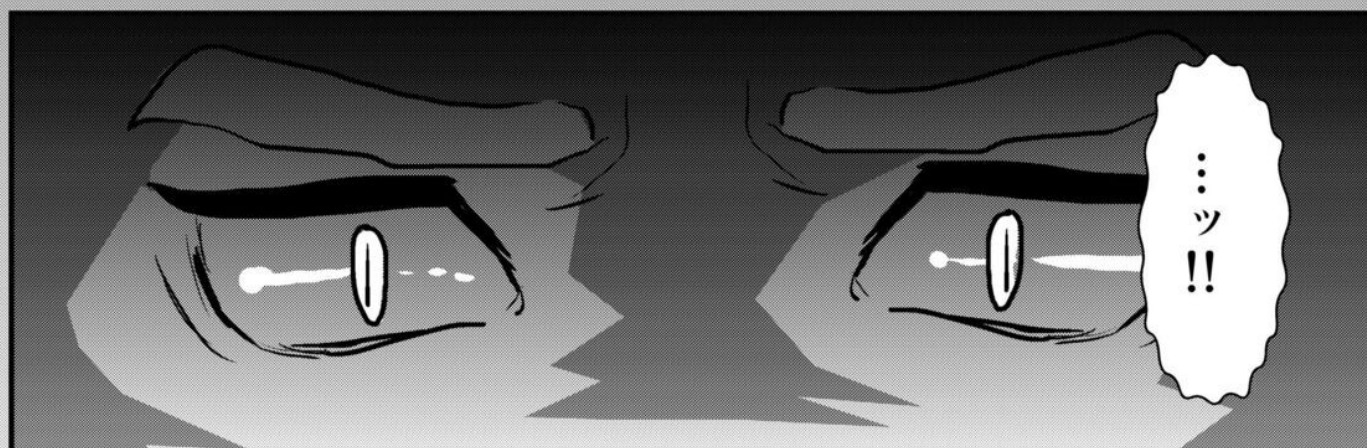
フッ







服を脱げ
人狼





貴方は：
今から始める
その契約で：

：正確には違う
契約を結んだのは
確かだが

今外に居る天狗様を
同じ門主に
引き入れたんですね：

今から行う
契約とは
また違う方法で
奴とは掟を結んだ

奴に取っては
長い生涯の中で
ほんの気まぐれに過ぎない

気が変われば
本来自分が
居るべき場所へ
戻って行くだろう：

奴はそういう
人間だ

人間…？
人間て…如何いう…

話は此処までだ

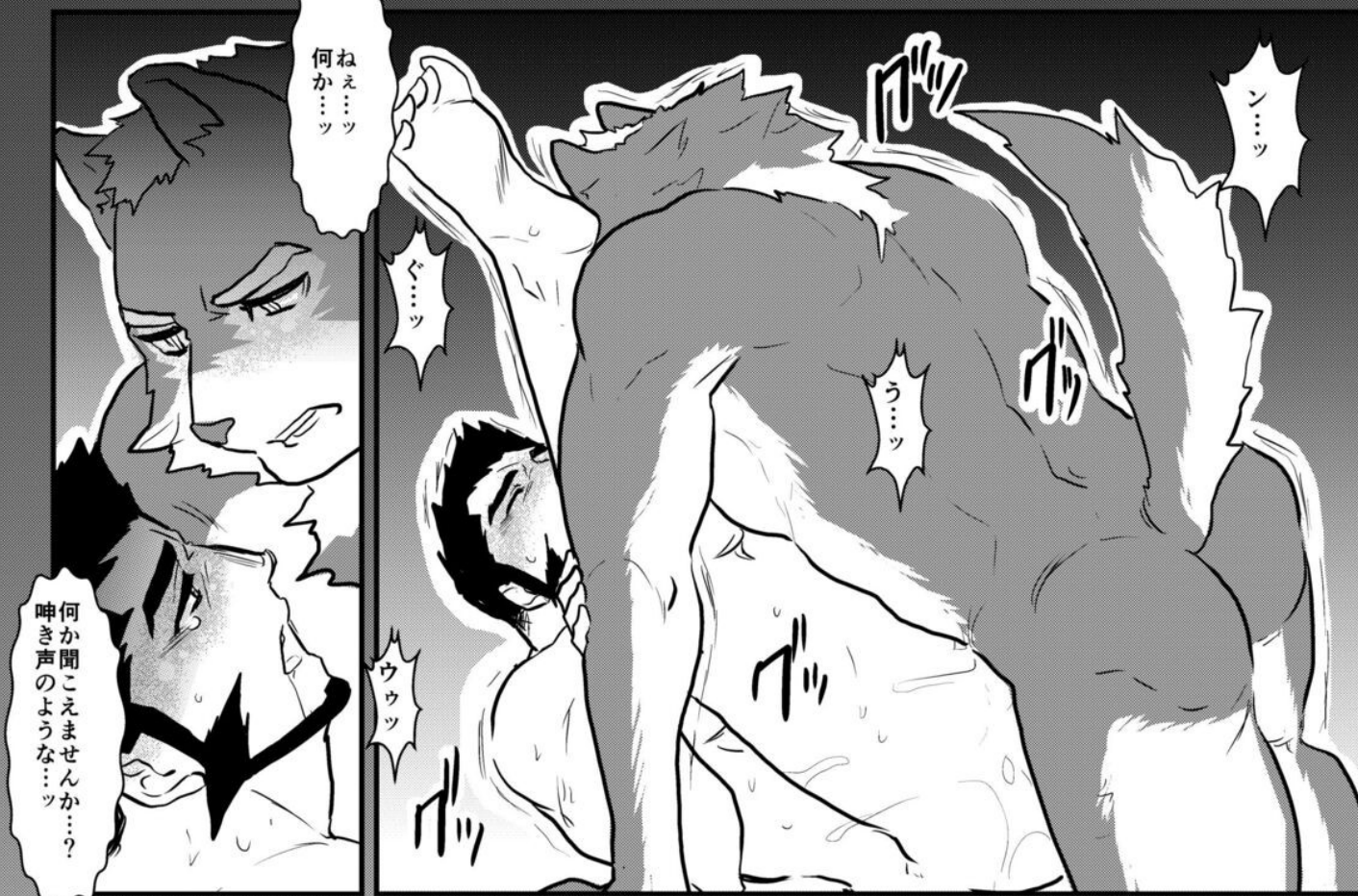






五月蠅い...ッ!!
お前は余計な事を
考えるな!!
今は奥に挿れる事だけ
考えろ...ッ!!

もっと奥に
挿れろ...ッ
抜けなく
なる程に...ッ













相当命が
惜しくねえ
様だな…?

坊主よお



この状況下で
まだそんな
事が言えるとは…



何処まで
本気で言ってるのか
知らねえが



もつとも…



自分の目で確かめて
見れば良い



まあいい
その与太話が
何処まで続くか



確かめれる程の意識が
残ってればの話
だけだなあ!!



でも残念だな…ッ
お前は今日俺に
喰われちまう…

ンギョッ

ウウツ

煮ようが焼こうが
俺の自由だもんなあ？

ぐイイツ

ぐひっ

タツプリと腹に
植え付けてから
殺してやる…ッ

安心しろよ…ッ

只痛めつける
様なことは
しねえ…

一度なりとも
愛した男だ…

そんな柔には
しねえよ…

しっかり
受け取れ!!



如何だ!?
坊主!!!

太いモノで
腹を挟まれる
気持ちは……ッ

デメエの意識
ぶっ飛んじまい
そうだろ?

アウウッ

ハアッ

ハアッ

ハアッ

ついでに俺の精汁で
頭も真っ白に
なりたいか……ッ



たっぷり出して
やるぜえ!!

!!/?

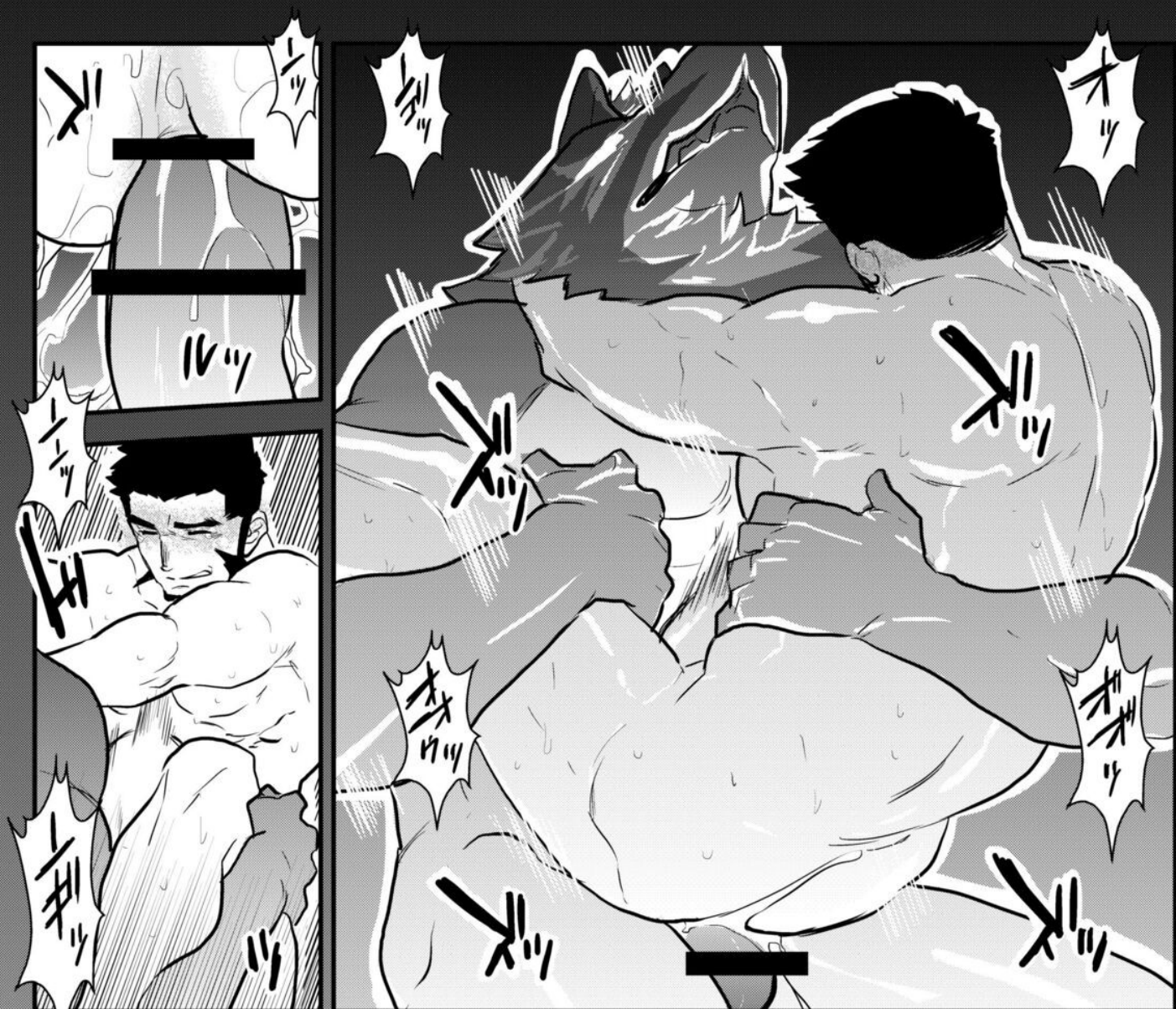


いいぜ!!
お見舞いして
やるよ!!

んああああアッ







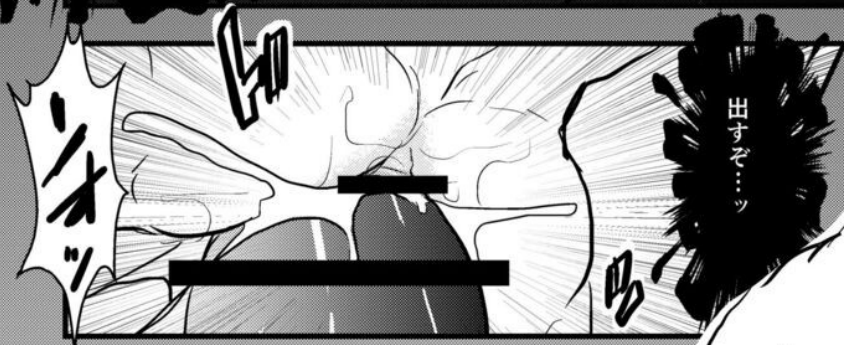


俺を従わせる事
なんて無理だぜえ!?

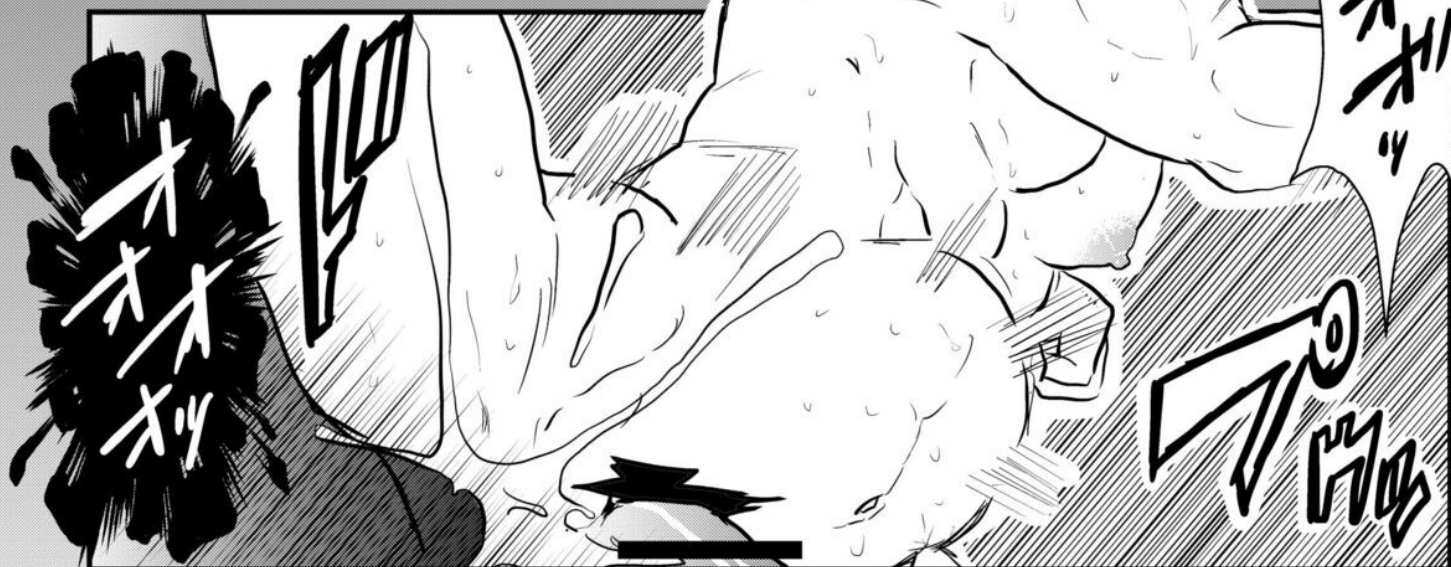
一度出された位で
へこたれるようじゃ



逃がしは
しねえぜッ



出すぞ……ッ







頭も
ぶっ飛んじまったんじゃ
ねえのか…？



でもこれで…



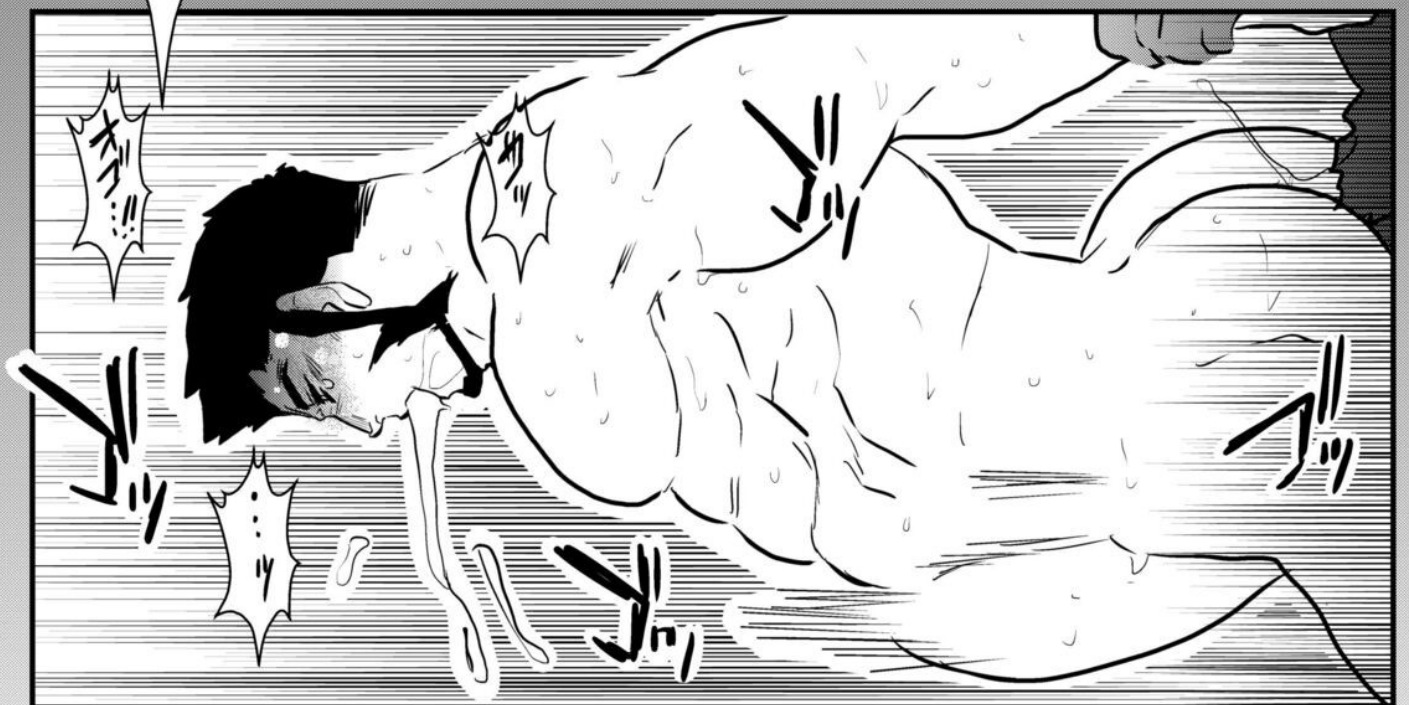
二回も
噴き出し
やがって…



まだそんな
力が残ってた
とはな…



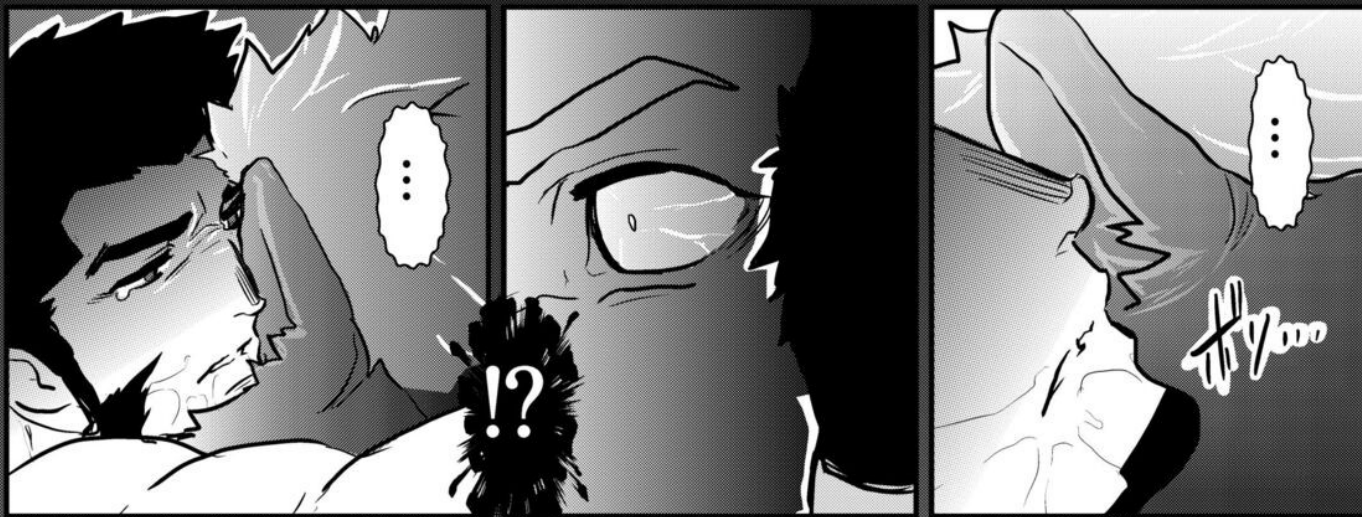
…ケッ
睨んでやがる…ッ







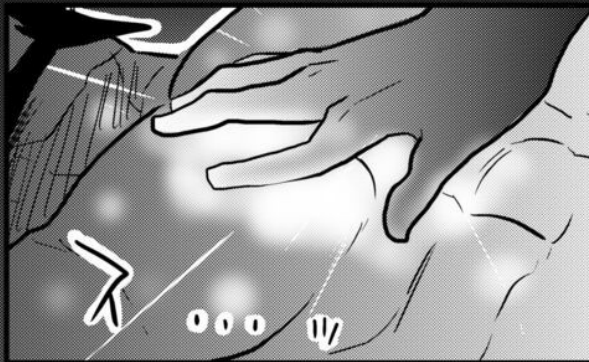






養坊主…ッ

ふぎけんじやねえ…









…終わったのか…？

ああ…



また厄介な者を
引き入れて
しまったものだ…

上等怪異として
恐れられていた
人狼も
今や昔の話…

もはやそやつしか
生き残って居ない様な
下等な種族…
放っておいても
いずれ死に絶えていたで
あろうものを…

アハハハ

アハ…



まあ良い…
いずれ吾も
此処から立ち去る
日が来る…

その前に…



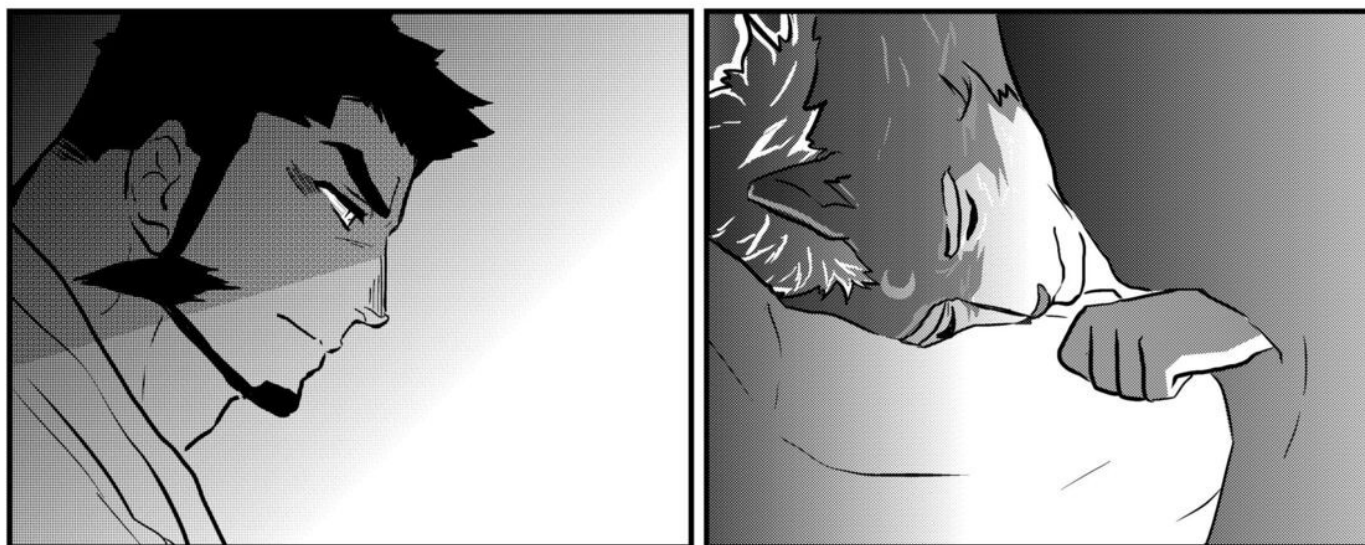
吾とは違って
随分と平凡な
契りではあったがな…



…門番は多ければ
多いほど良い

こいつの力も
役目を果たすに
相応しい力だ

その為に
契約を結んだの
だから…





俺の傍に…

俺の隣に
居てくれる事を
誓ってほしい…



約束して…
くれるか…

…



約束しよう
この身に変えても…

ああ…

お前の傍に
居ると誓う

あいやうそれそれめんそーれ。
：はい！どうもでございます、空色パンダでございます。

ただ今の時刻：朝の六時！みんなおはようー！
世界が明るくて若干イラつくぜ☆

最近ツイッターの方で落書き漫画を描いている私でございます。
いやそれが最初はツイッターに絵を載せるなんて抵抗があったんです。
だってそれはつきり言って絵の才能ないじゃないですか。私。

キャラの描き分けは出来ないし、色付けも下手くそ

何より作画崩壊が地獄級レベルのこの私。誰が見ますかよそんな奴の絵。

しかもツイッター上には素晴らしい絵師様達でひしめき合ってる…。

そんな所に自分の絵を投稿するなんて自殺するのと同じくらいの気持ちだったんです。

ただどある日知り合いの方から進められてやってみるかと落書き漫画を投稿したところ、

思いのほか自分が楽しくなっちゃって、以後漫画をそっちのけでバンバン投稿するようになったんですね。
：まあ：それだけなんですけど。（はあ？）

ということ漫画出来ました。

今回はなんと！誰も待っていない「妖の森」の続編でございます！

これさあ：何年前よ。え？もう自分でも分からないくらい昔に描いた記憶がありますが…。

一体前作を読んで頂いてる方は何人いらっしやるのか：つかいねえよなあんな糞漫画。

そんな誰が得するかも分からないような漫画を今回続編という形で再度投稿した私。

ええバカですよ。知ってます。

今回は前作にちよろつと出た坊主と狼男の話です。一応前作と時系列もリンクしてたりします。あざとい！
まあ：前と変わらずボロボロな漫画ですが、買って頂いた貴方！本当に有難うございます！

一応更なるプチネタバレするとこの坊主と狼男、
私の漫画の中のあるお話に出てくる登場人物の血縁：にあたります。

まあ誰も興味ねえ事ですが：ふふ。

ということでお目汚しを残して私は逃げます！また次回があったらよろしくお願いします！
それでは、ばいならつきよ！

